



日本プライマリ・ケア連合学会
四国ブロック支部 活動報告

発行人：板東 浩
事務局 〒761-2103
香川県綾歌郡綾川町陶 1720-1
綾川町国民健康保険陶病院気付
副支部長/事務局長 大原昌樹・松原宛
Tel. 087-876-1185 Fax. 087-876-3795
E-mail oharamasaki@gmail.com

★1 第1回医学生のためのプライマリ・ケア道場 (愛媛)

愛媛研究会 川本龍一

1) 「第1回医学生のためのプライマリ・ケア道場」が、平成26年2月15日(土)に開催され数多くの学生の参加がみられました。その中から、チラシおよびロールプレイングの場面を写真で示します。

2) 「愛媛PIPC (Psychiatry In Primary Care)」
PIPC で著名な宮崎 仁先生(宮崎医院 院長)をお招きしてセミナーを開催します。日程と場所は、3月15日(土) 18:00 前夜祭(愛媛大学工学部)～3月16日(日), 12:00 (愛媛県立中央病院講堂)となっています

3) 禁煙に関するトピックスとして、加藤正隆先生による下記の予定があります。週刊日本医事新報が、2月15日から「プライマリケア・マスターコース 成功率UPを目指せ! 禁煙支援のコツ」の連載(3回シリーズ)を開始します。その中で、第1回目は、「プライマリ・ケア医には「毎日が世界禁煙デー」!」となっています。

<http://www.jmedj.co.jp/>



岡山総会で、5月11日(日)8:00～9:00、第5会場にて、インタレストグループ3「地域における禁煙・喫煙防止教育の実際」を日本プライマリ・ケア連合学会タバコフリーWGのメンバー(四国支部からも多数参加)が主体となって開催します。地域ですぐに使えるツールの配布なども予定していますので、是非とも御参加ください。

第1回 医学生のためのプライマリケア道場

～先足記念会 進行プログラム～

| 項目 | 司会進行 | 講演者(地域医学生) |
|------------------------------------|--------------------------|-----------------|
| Warming up: Pre-In the Clinic G&A | 13:00～13:10 | 板東 浩 |
| 座談会(I) | 13:10～13:30 | |
| お話し | 高橋 謙 藤原 浩 | 川本龍一(地域医学生) |
| In the Clinic (I) | 13:30～15:00 | |
| 巻頭 | 5回生 末田悠志 小田直貴(産科) | 小田直貴(産科) |
| インフルエンザ | 5回生 岡野 光 藤原 浩 佐藤+パロ+ビザ+村 | 藤原 浩 佐藤+パロ+ビザ+村 |
| C型肝炎 | 5回生 藤 貴介 村原 隆(産科) | 村原 隆(産科) |
| Tea break: How to search journals? | 15:00～15:20 | 藤原 浩 |
| 座談会(II) | 15:20～15:40 | |
| 動物 | 4回生 小島 浩 | 板東 浩 |
| In the Clinic (II) | 15:40～17:10 | |
| 心臓病 | 5回生 中津寛太郎 | 川本龍一 |
| 深部静脈血栓 | 5回生 松田 幸希 | 板東 浩 |
| 寛容性糖尿病 | 5回生 藤原 浩 | 藤原 浩(産科) |
| Wrap up: Post-In the Clinic G&A | 17:10～17:30 | 川本龍一 |
| 懇親会(食事・酒類 欠、非常 欠) | 19:00～ | 会場 3,000円前後 |

会場 会場 松山第二講堂2-4-3 電話 089-948-4028

参加希望の方は懇親会への参加の意思も含め、2月13日(木曜)夕方までに各学年の担当までお願いします。当日参加も可能ですが、テキストを準備できない可能性があります。

★2 香川プライマリ・ケア研究会開催される (香川)

陶病院 大原昌樹

平成25年度香川プライマリ・ケア研究会が、平成26年2月11日(火・祝)、高松市内で行われた。本研究会は、平成6年に第15回日本プライマリ・ケア学会全国大会が香川県で行われたのをきっかけに、医療系各種団体が集まり研究会を作ったことに始まる。その後、福祉系職種や県も加わり、現在、医師、歯科医師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、栄養士、臨床検査技師、歯科衛生士、ホームヘルパー、介護福祉士、介護支援専門員の12職能団体と県の13団体の会に発展している。

まず、特別講演は、「リハビリテーションの目的とその役割」と題してNTT 東日本関東病院リハビリテーション科部長稲川利光先生にお願いした。農学部を卒業した後、理学療法士の資格をとり3年間現場で働いた後、当地香川医科大学に入学した異色の経歴の持ち主である。卒業後も異色で、循環器内科の医局に入ったがそこを飛び出し、伊豆のリハビリ病院に就職、回復期や在宅医療を経験した後、現在、600床の大病院でリハビリ部長をしている方である。月1万5千円のアパート暮らしから始まり苦労した学生時代の話から、リハビリの心、在宅の楽しさ、現在の急性期病院で気をつけていることなどを楽しくユーモアを交えてお話しいただいた。急性期病院のスタッフも在宅のことを知らないといけないこと、患者さんの背景を考えることが大切という点を特に強調されていた。「リハビリの心と力(学研)」などの本を出版されたり、NHK Eテレにも出演されておられるので見ていただきたい。

その後、一般演題であったが、今回は10演題、10職種から発表があった。演題名だけ紹介するが、①栄養士：「廃用性症候群から脱却への取り組み」、②理学療法士：「高齢者入居施設における理学療法士の役割」～事例を通じた介入効果の一例～、③歯科衛生士：「知的障害者通所施設における歯科に関するアンケート調査からの報告」、④歯科医師：「香川県 歯の健康と医療費に関する実態調査」-特定健診歯科問診項目における調査から-、⑤薬剤師：「保険薬局の在宅療養への係わりについて」⑥介護支援専門員：「多職種連携で世帯を支援した2例」、⑦介護福祉士：「転倒骨折による入退院後の介護保険サービスの利用を支援して」、⑧作業療法士：「訪問リハビリテーションの役割」、⑨医師：「当地域の在宅医療における多職種連携の現状」、⑩香川県：「介護保険制度改革の方向性」～地域包括ケアシステムの構築～、であった。それぞれ工夫を凝らした発表で熱意が感じられた。他の職種に理解してほしいことも発表内にうまくまとめていただき、お互いを理解することにつながったと思う。熱が入りすぎて、4時半終了予定が5時までかかったが、本当に有意義な会であった。

★3 JACA 視察団受け入れ (徳島)

美馬市国民健康保険木屋平診療所 藤原真治

本ニュースレターをお読みの方々の施設でも、海外からの視察団を年に何度も受け入れられているところがおありかと思います。今回、地元紙で記事になった視察があったのを機会に、当地域での様子をご報告します。

平成26年2月3日(月)、国際協力機構(JICA)四国支部が主催、高松市にある公益社団法人セカンドハンドが事業を受託・実施した「へき地での保健医療体制の向上コース」の一環で美馬市木屋平の視察が行われました。視察団は中東からグルジアとイエメン、アフリカからガーナ、中南米からホンジュラス、中央アジアからタジキスタンなど7カ国10名の多彩な顔ぶれでした。

当地域での地域医療の概要を講義形式でご紹介し、木屋平診療所の見学をして頂きました。いつもは訪問診療に数件ご同行頂くのですが、僕が視察団の到着直前にインフルエンザに罹患していることが判明し(!)、中止となりました。各国の医療状況を互いに紹介しながら、木屋平の地域医療について熱心なご討議を頂き、出席者全員にとって楽しく有意義な時間になったと感じました。

2014年(平成26年)2月4日 火曜日 地域 (12)

藤原医師から診療体制などについて説明を受ける各国の研修生＝美馬市の木屋平診療所

へき地医療の現場視察

発展途上国の医師ら

発展途上国の医療関係者を対象にした、国際協力機構(JICA)四国支部など主催の研修会が3日、美馬市あり、ガーナやグルジア、イエメンなど7カ国の10人が医療施設などを視察した。

テーマは「へき地でPCCと連携して取り組む保健医療体制の向うにいてる患者の送迎や上」。木屋平では、市 服薬指導について説明

研修所の藤原真治氏を受け、往診や各師(43)から、地元N種検査の仕組みなどを熱心に質問した。脳断のホウエイ病院では、ドクターヘリが発着するヘリポートを見学した。

ホンジュラスのコパン保健医療センターで政策調整などに携わっている医師ワレスカ・カルドナさん(46)は「住民と一体で健康維持に取り組んでいるのが素晴らしい。往診などの仕組みも参考にしたい」と話した。

四国の過疎村や離島での医療体制を学び、各国の保健行政に役立ててもらうのが目的。一行は2月10日まで約20日間、徳島、香川、高知の3県を順次視察している。(立尾貴宏)

7カ国10人 美馬で研修会

★4 歯科から 「平成 25 年度多職種協働によるチーム医療の推進事業」について (香川)

三豊総合病院企業団 歯科保健センター 木村年秀

日本歯科医師会では厚生労働省の委託を受け、上記事業を岩手県、静岡県、香川県を会場に実施しています。香川県では、医療と介護の間に、口腔や摂食・嚥下の情報を共有するために、インターネットによる在宅歯科地域連携クリティカルパスを整備するために研修会や、運用説明会を実施してきました。平成 25 年 12 月 12 日には日本大学歯学部・摂食機能療法学講座 植田耕一郎教授と綾川町国保陶病院 大原昌樹院長をお招きし、第 1 回研修会を開催しました。植田先生には要介護者がおいしく、楽しく、安全に食事ができるよう摂食・嚥下障害やリハビリテーションの方法などについて、事例をあげながらご説明していただきました。

そして、大原先生には香川シームレスケア研究会の活動状況や医療と介護の連携、現在、綾川町や三豊観音寺で運用している在宅 IT 化の取り組み(医療介護地域連携クリティカルパス整備事業)についてご説明していただきました。本事業では、在宅訪問歯科診療を実施している歯科医療機関と主治医や調剤薬局、訪問看護ステーション、通所サービス、ケアマネジャーなどの情報共有のツールとしてインターネットを利用した取り組みを進めています。



写真は、植田耕一郎先生による講演：「要介護高齢者への食事支援：おいしく、楽しく、安全な食生活を営むために、その着眼点と手法」を示します。

★5 「第 13 回徳島地域医療教育研究会」(徳島)

徳島大学大学院総合診療医学 谷 憲治

徳島大学大学院総合診療医学分野主催で年に 2 回のペースで実施している徳島地域医療教育研究会も第 13 回目を迎えました。谷教授の挨拶の後、まず、徳島県南の海部郡の地域医療を守る会副会長の石本知恵子さんによる住民活動の取り組み紹介「今、地域住民にできること」がありました。

その後、兵庫県立柏原病院小児科の和久祥三先生からの「志を救われた泣き虫小児科医の一例ー地域医療再生のヒントー」と題した講演が行われました。今回のテーマは「住民が地域医療を守る」であり、講演の後は演者二人に壇上に出てもらって総合討論を行いました。

地域医療を支える活動を紹介する石本さん
徳島市のホテルランドパレス徳島
徳島市で研究会
徳島地域医療教育研究会が15日、徳島市のホテルランドパレスで開かれ、徳島大学医学部の学生ら40人が参加した。研究会の副会長(63)は「今、地域医療の実情や課題を話し合いたい」と話していた。(岡本直也)

徳島大学医学部3年の西田結香さん(21)は「医師を医療スタッフへの感謝を忘れず、住民も地域医療を守る一員である自覚することが大切」と話した。

徳島市で研究会
徳島地域医療教育研究会が15日、徳島市のホテルランドパレスで開かれ、徳島大学医学部の学生ら40人が参加した。研究会の副会長(63)は「今、地域医療の実情や課題を話し合いたい」と話していた。(岡本直也)

集まっていたいただいた徳島県内で地域医療に関わる先生方、県の皆さん、徳島大

第13回徳島地域医療教育研究会

拜啓 この度、下記のとおり第13回徳島地域医療教育研究会を開催いたします。今回は、「小児科を守る会」の活動で全国的にも有名な兵庫県立柏原病院の和久祥三先生にご講演をお願いし、皆様方と地域医療を守る活動のあり方について意見交換を行いたいと考えております。 敬具

日 時： 平成26年2月15日(土) 午後7時～
場 所： グランドパレス徳島
徳島市寺島本町西1-60-1 TEL 088-626-1111

開会の挨拶
徳島大学大学院総合診療医学分野 谷 憲治教授

講演1 「今、地域住民にできること」
地域医療を守る会副会長 石本知恵子さん

講演2 「志を救われた泣き虫小児科医の一例」
ー地域医療再生のヒントー
兵庫県立柏原病院 小児科 和久祥三先生

総合討論

意見交換会 (予約制で会費必要)

SAKURA-GMカンファレンス
講師 亀田ファミリークリニック館山 河南真吾先生

問い合わせ：徳島大学大学院総合診療医学分野 TEL: 088-633-9656
*参加希望の方は事前連絡をお願いします

主催：徳島大学大学院HBS研究部総合診療医学分野

学医学生、大変ありがとうございました。これからも徳島の地域医療を盛り上げていきましょう。

関東の雪のため亀田ファミリークリニック館山で勤務中の河南真吾先生が来れないというハプニングがありましたが、会の後の親睦会も楽しく盛り上がりました。

★6 へき地医療を支援するドクターヘリの新たな運用を目指して（高知）

高知医療センター 澤田 努

2014年2月13日～14日にかけて、高知医療センターのフライトドクター、CS、高知県消防防災航空隊、高知県庁の救急医療担当職員らで熊本県へ視察に行ってきました。

熊本県では、ドクターヘリと共に県の消防防災ヘリもあって、両者がうまく共生した形で運用されており、高知でも是非そのやり方について学びたいという趣旨の視察でした。熊本では、火災・救難などと共に、ドクヘリが必要となる救急要請（転院搬送を含む）についても全て県防災消防航空センターが窓口となり、その情報をドクヘリ基地病院である熊本日赤病院だけでなく、その他患者さんの受け入れに関与する他の3次病院3施設（国立病院機構熊本医療センター、熊大医学部附属病院、済生会熊本病院）の救急医師が同時にその通話を聞くシステムになっています。



そのため、救急隊はドクヘリと防災ヘリのどちらを要請すべきか迷うこともなく、日頃から顔の見える消防関係者間で情報のやり取りができ大変スムーズな運用でした。転院搬送は基本的に受け入れを行う側の病院医師が、防災ヘリに同乗して患者さんを迎えに行く形になっているなど、そのほか高知で学ぶべき点が数多くみられました。

高知では現在年間500件を越えるドクヘリ要請件数となっており、今回の視察では、高知における新たなドクヘリと県の防災ヘリとの新たな共生のあり方についておおいに参考になる大変有意義なものでした。県内の中山間・へき地の救急医療を守る大切なドクヘリと防災ヘリなので、これからも引き続き現場の意見を集約しながらより有効に活用していければと考えています。

★7 四国支部事務局から

四国支部 板東 浩・大原昌樹

昨年11月に高知で四国支部大会が開催され、その際には、阿波谷先生・澤田先生をはじめ、多くの関係者の方々に御世話になり、まことにありがとうございました。

その後、各先生から提出いただいた論文をまとめ、大会の様子は他の参考資料も含み、ほぼ編集を終了いたしました。日本PC連合学会では、新しい年度に関する役員選挙が行われ、四国支部の評議員が決定し、その際の名簿を示します。愛媛県：川本龍一、加藤正隆、高原完祐、村上晃司、杉山圭三、原 穂高、大塚 伸、香川県：久保文芳、横井 徹、木村年秀、千田 彰一、大原昌樹、中津守人、舛形尚、泉川美晴、佐藤清人、塩見勝彦、徳島県：谷 憲治、河野光宏、山口治隆、鎌村好孝、白川光雄、板東 浩、藤原真治、村山善紀、高知県：瀬尾宏美、武内世生、阿波谷敏英、夕部富三、青木啓祐、澤田努、佐野良仁。次第に、学会の新体制も決まっていくと思われれます。四国支部でも評議員のよる会議を行い、今後の方針等を決定して参ります。

また、2014年11月15～16日には、白川光雄先生が大会長を担当して、徳島で四国支部大会が開催され、いま、準備を進めております。次回のニュースレターではある程度、四国支部大会について、いろいろな情報をお伝えできるものと思われれますので、しばらくお待ち下さいませ。